

石狩湾系ニシンの漁況予報

北海道立総合研究機構 中央・稚内水産試験場

平成25年11月28日

石狩湾系ニシンの今漁期（平成26年1～4月）における漁況は、次のようになる見通しです。

1. 来遊資源量は、ここ数年の比較的高い水準が続く見通しです。
2. 魚体は、5年魚（2009年級）主体で大型となるでしょう。
3. 盛漁期は、1月下旬から2月下旬となるでしょう。

後志以北日本海沿岸に来遊する産卵群の全体動向の予報であり、海域により来遊傾向は異なります。

本年10月に留萌沖で実施した稚内水試調査船「北洋丸」によるトロール調査の採集物は、下図のとおり、魚体の大きな5年魚（2009年級）の占める割合が高くなりました。この年級群は前漁期（本年の1～4月）に4年魚として漁獲増に貢献した年級群であり、今漁期もこの年級群が漁獲の主体となる見通しです。これまでのトロール調査結果等から、2009年級は漁獲加入時点（1歳）での豊度が高い「高豊度年級」と推定されており、資源尾数は前漁期より減少しますが、個体の成長により資源重量としてはさほど大きく減少しないと考えられます。また、4年魚（2010年級群）と6年魚以上の資源尾数は、トロール調査の採集物の年齢比から、それぞれ5年魚の約20～30%程度と推定されます。一方、3年魚（2011年級群）については、稚魚分布調査や本年9月のトロール調査では比較的多く採集されましたが、10月のトロール調査でほとんど採集されず（下図）、その資源豊度を現時点で判断することは困難です。しかし、近年、漁獲の主体となっているのは4年魚以上であり、4年魚以上の資源量は、漁獲量1,400～2,300トンの好漁が続いた2009年以降の水準を下回らないと推定されます。したがって、今漁期についても比較的高い資源水準で来遊があると考えられます。

刺し網など産卵群を対象とする沿岸漁業への来遊は、魚体が大きい（高齢魚）方が早く、小さい（3年魚など）方が遅くなる傾向があります。前浜への来遊時期は水温や波浪など海洋環境に大きく影響されますが、今漁期は5年魚が主体となることから、1月下旬頃から2月下旬にかけての時期が盛漁期となる見通しです。

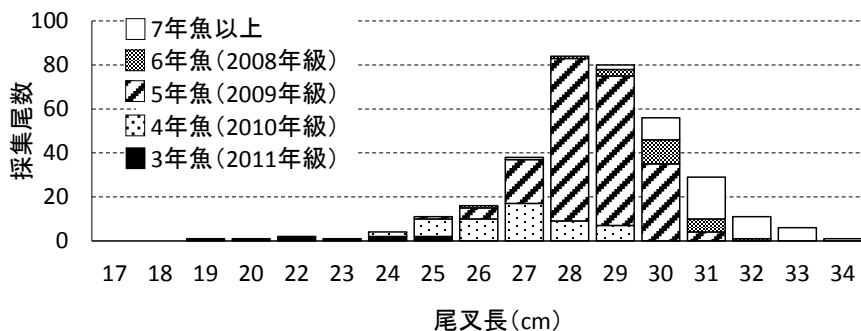


図 本年10月に留萌沖のトロール調査（北洋丸実施）で採集されたニシンの年齢別尾叉長組成